2020/07/05 15:35

多田雅史

件名: 全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会（BYA)【情報 Vol.２１３】

各位（本情報提供メールは当会会員、協力弁護士、協力医、報道機関、医療過誤団体、野党政党等の約 400 カ所へ BCC 送信しています）

全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会（BYA）の多田雅史です。
本メールはベンゾジアゼピン（BZD）関連情報をお送りしています。
⑴ 新規の情報提供希望者が身近におられた場合、BYA－HP の「お問合せ」をご紹介ください。
https://www.benzodiazepine-yakugai-association.com/
⑵ 有用な情報をお持ちの方は本メールに返送してお知らせください。皆さんに情報提供します。
⑶ 情報の中で「拡散すべき情報」があれば、皆さんの判断で自由に「転送･SNS 拡散」してください。

【目次】
１．世界ベンゾ注意喚起の日「711」活動（**添付**）
２－１．IS 製造か 覚醒剤 1200 億円相当を押収 イタリア（**添付**）
２－２．大麻草 38 株を栽培した容疑で会社社長の夫とともに逮捕の 36 歳女 コカイン使用の疑いで“3 度目の逮捕”（**添付**）
３．原爆症訴訟、5 人を認定 広島高裁判決 6 人は退ける（**添付**）
４．最近の相談事項から（**添付**）
５．精神科医が「絶対にやるべき！」と断言する朝のベスト習慣（**添付**）
６．「息が苦しい…」無痛分娩で異常を訴え、亡くなった 31 歳女性の無念（**添付**）

【記事】
１．世界ベンゾ注意喚起の日「711」活動（**添付**）

２－１．IS 製造か 覚醒剤 1200 億円相当を押収 イタリア（**添付**）
https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200702/amp/k10012492401000.html
以下引用
『イタリアの警察は、南部ナポリ近郊の港で、過激派組織ＩＳ＝イスラミックステートが製造したとみられる覚醒剤およそ 14 トン、末端価格で少なくとも 1200 億円相当を押収したと発表しました。』

２－２．大麻草 38 株を栽培した容疑で会社社長の夫とともに逮捕の 36 歳女 コカイン使用の疑いで“3 度目の逮捕”（**添付**）
https://news.yahoo.co.jp/articles/52071786109c087cfd2970057b55d87069d7ea4b
以下引用
『名古屋市名東区のマンションで大麻草 38 株を栽培したとして、会社社長の夫らと共に逮捕されていた 36 歳の女がコカインを使用したとして、3 度目の逮捕です。』

仮に、NCNP 松本俊彦医師が提唱する「**違法薬物の自由化・非刑罰化**」を進めれば、日本は違法薬物大国になって、大量の薬物依存患者が苦しむことになる。もしかすると、松本俊彦医師は自分が大麻や覚醒剤を使いたいのかも知れない。

３．原爆症訴訟、5 人を認定 広島高裁判決 6 人は退ける（**添付**）
https://news.yahoo.co.jp/articles/370be365516538bcf80f5537525c099b87d9202f

2020/07/05 15:35
以下引用
『被爆の影響で心筋梗塞や甲状腺機能低下症を患っているのに原爆症と国が認めないのは不当として、被爆者 11 人が原爆症の認定申請の却下処分の取り消しなどを国に求めた訴訟の控訴審判決で、広島高裁の三木昌之裁判長は 22 日、5 人の処分を取り消し、原爆症と認めた。一方、6 人の請求については一審広島地裁判決を支持し、訴えを退けた。』
『原爆症と認めたのは、甲状腺機能低下症や急性心筋梗塞を患う 5 人。三木裁判長は「被爆時は若年で放射線に対する感受性が高かった」とした上で「放射線に被曝（ひばく）したことにより発症したものとみるのが合理的」として放射線起因性があると判断。治療が必要な状態が続いているとして要医療性についても認めた。一方で、残る 6 人の訴えは「被曝との間に関連性があるとしても限定的」などとして退けた。』

被爆者であっても、心筋梗塞や甲状腺機能低下症を患っても、「被曝との間に関連性があるとしても限定的」とされて補償されない。これが日本の司法の現実である。ベンゾジアゼピンも同様に、ベンゾジアゼピンと副作用の関連性＝因果関係を立証の困難が予想される。しかし、日本のベンゾジアゼピン問題を放置することはできない。

４．最近の相談事項から（**添付**）
⑴治療上、ベンゾジアゼピン減薬治療に際して、ベンゾジアゼピンを再度処方することはありますが、短期間に限られます。
一番重要なことは「断薬＝中止を想定して処方すること」です。
現状、医師の処方はこれが欠けていて、場当たり的に長期処方するため、依存と離脱の副作用が避けられません。
「**中止することを見込んだ処方計画**」があるかどうかが、適正な処方の判断基準です。

⑵最近、ベンゾジアゼピンの危険性が伝わり始めたせいか、ベンゾジアゼピンの代わりに抗精神病薬を処方する事例が増えている。抗精神病薬は統合失調症などに処方する薬物であり、向精神薬＝ベンゾジアゼピンよりも、一層、副作用が強烈になる。
『非定型抗精神病薬の一つである。1996 年に発売された。日本国内では統合失調症治療薬』ですので、危険な薬です。
添付資料のとおり、**「処方➡減薬➡中止」までの計画を確認**した方がいいです。現状の処方は「とりあえず、これ飲んでみて」などといった安易な処方が多く、処方・中止の計画がない場合が多いのが問題点と指摘されています。

５．精神科医が「絶対にやるべき！」と断言する朝のベスト習慣（**添付**）
https://diamond.jp/articles/-/241743
以下引用
『精神科医としておすすめの最高のモーニングルーティンがあります。それが、「朝散歩」です。方法は簡単です。朝起きてから 1 時間以内に 15～30 分の散歩をするだけです。それだけで、セロトニンが活性化し、体内時計がリセットされ、「副交感神経」から「交感神経」への切り替えがうまくいき、自律神経が整えられます。ストレスフリーを目指すのに、こんなに効果的な健康習慣はありません。』

薬物の副作用を、さらに薬物で治療しようとしても無理である。最後は、人間の体の**自然治癒力**であると思う。それには少し時間がかかり、**時間薬**である。**少しの努力があなたを救うことになると考えられます**。

６．「息が苦しい…」無痛分娩で異常を訴え、亡くなった 31 歳女性の無念（**添付**）
https://news.yahoo.co.jp/articles/341383791c5b45cb2cbd646ed3c436f86c6dd8a4?page=1

2020/07/05 15:35
以下引用
『アメリカやフランスでは一般的になりつつある「無痛分娩」で起きた医療事故による悲劇。業務上過失致死容疑で書類送検された医師は、いったん不起訴になったが、検察審査会の「不起訴不当」議決を受けて検察が再捜査を実施。検察は近く、起訴するかどうかの最終判断を下す見込みだ。』
『だが起訴するかどうかの権限(公訴権)は検察が独占しており、壁は高い。いったん不起訴にした事件を、検察審査会が「不起訴にしたのは不当だ」と議決したからといって、方針を変えて起訴するのは、恐らく検察のメンツに関わるのだろう。
　検察には医療事故に関して苦い経験がある。04 年の福島県立大野病院事件で、警察が必要もないのに医師を逮捕して医療界から激しい非難を浴びた。しかも検察が起訴した結果、裁判では惨敗。
　小川氏は「それがトラウマになり、大野病院事件以降、検察は医療事故の捜査と起訴に及び腰になっている」と話す。』

日本の司法は「行政の御用裁判官」、日本の検察は「行政の人事権への忖度検事」、日本人なら誰もが知っていること。

全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会　多田雅史